



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

第41号

平成29年（2017年）3月発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報部

「学心研道」再び

兵庫教育大学長 福田 光 完

大学院同窓会会員の皆様には日頃から何かと同窓会運営にご協力いただき、ありがとうございます。大学を代表してお礼申し上げます。会員皆様の益々のご発展をお祈りします。

さて、平成28年8月6日、7日に開催された大阪大会も130名を超える修了生・関係者が参加し充実した会となりました。本学第2代学長である上寺久雄先生



には、御高齢にもかかわらず、本学講堂横の石碑に刻まれている「学心研道」についてのお話を含め、改めて心引き締まる激励のお言葉を賜り、多くの修了生が感激しました。私はお話の中で、「学心研道」の四字熟語に込められた上寺先生の思いを強烈に感じました。「学心研道」の石碑は本学創立10周年記念行事の一環として建立されました。しかしその後、本学に赴任した教職員、そして修了された多くの大学院生は、この素晴らしい石碑について言及することなく、すでに記憶の彼方にある方もおられるのではないかと危惧いたします。教育一筋に尽力された上寺先生の兵庫教育大学に対する強い思いを込めた「学心研道」を今再び、すべての大学院同窓会の皆様の心の

中に刻んでいただきたいと思います。

昭和63年11月発行の学園だよりに「創立10周年にあたって」と題する上寺学長の文章があります。この中で「学心研道」が現れます。翌年の平成元年6月発行の同誌には、このことばの由来が示されています。ここで初めて、「学心」は荀子の正名篇に出てくる文章の中から、そして、「研道」は「三國志」巻四十二蜀書郤正伝に出てくる文章から引用し、「学心」は物事を学ぼうとする意志や向学心を意味し、「研道」は道の奥義を究め尽くす意味だと説明されています。さらに、「学心」と「研道」はそれぞれ意味を持ったものであるが、これを併せて「学心研道」とし、本学の根本理念にしたいと願って刻みこんだと述べられています。その意義は「学ぼうとする意欲をもって、どこまでも真理を究明し、教育の道が見えなくなれば、道を探し求め、道がなければ道を作って進む」と説明されています。平成2年3月発行の同誌に残されている上寺先生の大学院学位記授与式式辞の中に「本学で身につけられた『学心研道』の精神にもとづき、教育の大地にしかと足をふみしめて、これでもか、これでもかと『教育道』を歩み続け、児童生徒とともに成長しつづける教員となつて精進して下さることを祈念するとともに、そうあることを確信して、皆さん

を送り出す式辞といたします」と記されている。また、平成3年3月発行の学園だよりには、「（玉不琢、不成器。人不学、不知道。の説明の後）・・・これはわたくしのお願ひした『学心研道』と同じ精神です。この道は『教育道』にほかなりません。この道は（途中略）一人ひとりが、先覚者の歩んだ道を謙虚に歩み、その過程のうちに自らの道をつくり出す、いわゆる自らの努力によって見出し、自ら造り出し、各個人が身につける道、個性豊かな道です。」

そして、平成4年12月には退任のことばの中に、「創立10周年を機に、私の学是を『学心研道』として樹立して下さいました。本学の生きる道は「学心モテ道（教育道）ヲ研ム」ことだと信じます。道見えざれば、これを探し、道なければ新々構想大学を創り出す気概を持って努力して下さい。私も、今後とも『毅然として道を求め』『悠然として教育道に生きる』所存です。」と結ばれている。

私があればこれという出番はありません。偉大な教育者であり、心から敬愛する上寺久雄先生のお言葉に只々、頭の下がる思いです。幸いにもこの紙面を借りて「学心研道」を再び同窓会の皆さまに紹介できたことを喜びとし、教育に関わる若い方たちに伝えていこうと思います。

ブロック活動の紹介 (6) (通算)

―北海道・東北ブロック―

北海道・東北ブロック長

遠藤 茂

平成27年8月に仙台市で第35回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会in宮城の開催。これが北海道・東北ブロック活動の第一歩です。

全国大会開催に取り組んだのは以下の理由からです。一つ目は支部活動の停滞・マンネリ化打破です。二つ目は今年度で第36回目を数えた全国大会ですが、当ブロックでの開催は過去に2度岩手県盛岡市で開催しているのみということです。三つ目は東日本大震災です。発生5年経過を一つの節目と捉え、震災からの復旧・復興の進捗状況を全国に発信するとともに感謝と御礼の気持ちを伝えたかったからです。

全国大会は、メインテーマを東日本大震災からの復旧・復興とし、1年以上かけて10回を超える準備委員会を仙台市でもちました。会議は協議内容によって地元の宮城県支部会員によるもの、ブロックの組織を生かしたものと、二本立てで行いました。俗に事を為すのに「ひと・もの・かね」と言われますが、支部を超えたブロックでの話し合いを通して「良きひと」との出会い・ネットワークづくりができたこ

とは何物にも代えられない貴重な財産になりました。また、「かね」の面でも同窓会からのブロック活動助成のお陰で若干の費用弁償をできたことも有難いことでした。

決して他に誇れる何物もありませんが、全国大会をやって良かったという達成感を実行委員全員で共有できたことは大きな収穫でした。併せて支部活動のマンネリ化打破への一筋の光明を見出すことができました。さらに、ブロック活動の可能性を感じ取ることもできました。

しかしながら、全国大会終了後、北海道・東北ブロック活動の第二步を踏み出しかねているというのが実情でもあります。ブロック活動の原点は支部活動。ブロック内7支部の現状は残念ながら一様ではなく、派遣教員が途絶えた状態、派遣されていても派遣教員数の減少、支部会員の高齢化等の問題を抱えています。一方では研究会活動を継続的に行っている支部等様々です。このような現状を見極めつつ全国各ブロックの先行事例に学び、当ブロックではどんな活動が可能なのか理事や支部代表との連携を図りながら模索していきたいと考えています。

ブロック活動の紹介 (7) (通算)

―東中国・四国ブロック―

東中国・四国ブロック長

清田 公典



本部役員会や全国大会において、ブロック活動の活性化が提案され、平成25年度に東中国・四国

ブロック研修会を立ち上げ、毎年1回ブロック研修会を行っています。

◇平成25年度（いで湯と文学の町）愛媛県松山市）参加者10名

期日 平成26年3月1日（土）

会場 公立学校共済組合にぎたつ会館

ブロック役員会・総会（各県支部活動・交流会・全国大会案内・意見交換など）

講演会「個性管見値」瀬戸内教育研究所長 元兵衛教授 武田正浩先生

「道後温泉の紹介」愛媛県支部 清田公典支部代表

懇親会 自由散策（道後温泉、松山城など）

◇平成26年度（桃太郎伝説の岡山県岡山市）参加者14名

期日 平成26年12月13日（土）

会場 公立学校共済組合ヒュアリティまきび

ブロック役員会・総会

講演会「岡山の歴史と文化」元吉備国際大学教授 白井洋輔先生

懇親会 自由散策（後樂園吉備津神社など）

◇平成27年度（因幡の白兔伝説の鳥取県鳥取市）参加者20名

期日 平成27年11月28日（土）

会場 公立学校共済組合白兔会館

ブロック役員会・総会

講演会と相撲部稽古見学（鳥取城北高校訪問）

講演会「相撲道への道と選手の育成」鳥取城北高校 石浦外喜義校長先生

相撲部稽古見学（相撲部員の「うそのない稽古」をモットーにした真剣な稽古に圧倒されました。）

懇親会 自由散策（鳥取砂丘、砂の美術館など）

◇平成28年度（いで湯と文学の町）愛媛県松山市）参加者14名

期日 平成28年11月26日（土）

会場 ホテルメルパルク松山

ブロック役員会・総会

講演会「坂村真民の生き方とそこから生まれた詩について」坂村真民記念館館長 西澤孝一先生

懇親会 自由散策（坂村真民記念館、砥部焼、道後温泉など）

ブロック活動

や各県支部活動の様子、共有

講演会や自由散策での広い見

聞、懇親会での役員・会員の絆

の深まりなど、大きな成果となつています。



第36回 兵庫教育大学大学院 同窓会総会・研究大会「大阪大会」

標記の大会が、平成28年8月6日(土) 7日(日)の両日、大阪市のホテルアウィーナ大阪をメイン会場として開催されました。全国各地より大学関係者や同窓生を合わせて136名が参加し、上寺久雄元学長より激励の言葉をいただくなど、とても有意義な大会となりました。

本大会開催にあたり、事前の周到な準備から、当日のきめ細やかな運営全般に至るまでご尽力賜りました、大阪府支部を中心とした近畿③ブロック(奈良県支部・和歌山県支部)のすべての関係者の皆様に対し、衷心より厚くお礼申し上げます。有難うございました。

基調講演 「記憶力を保つために」

兵庫教育大学長
福田 光 完



今日は皆さんに「少しは役に立つかな」と思われる「記憶」の話をしたいと思います。

す。記憶の種類と言っているのは、専門的には4種類くらいあるそうです。ここでは簡単に、事柄に関する情報と、行動に関する情報とに分け、そして、すでに体験したことや知識として記憶していたはずのもの、についてお話しします。

私は今の仕事をしていて一番困るのは、相手の名前が出てこないことです。「○○先生」や「△△課長」という言葉は便利な言葉です。名前が分からないとき、「先

生、先生」と言いながら、名前が早く出てこないかと考えているのです。しかし、焦ると全然出てこないです。でも、そういうわけが話が終わってしばらくしてからポツと出てくるわけです。こうした経験をしていますと、「これはあかんわ!」と思うのです。

そこで、少し時間がある時に、思い出しては名前を書き、思い出しては名前を書き、とにかく書いていくわけです。一時間あれば百人ぐらい思い出していきけるのですが、空白がいつぱいあります。顔は思い出すが、名前が浮かばないのです。そうすると「やつぱりこんなに忘れてるわ!」と思うのです。これが第一回目の「思い出し練習」というわけです。三週間ほど空けて、もう一度やりました。今度は、結構出てくるのです。第一回目で思い出せなかった人はその時に調べて名前を確認したので、二回目は一回目とは違って嘘のように出てくるのですが、それでも出てこない人が何人かおられるのです。どうするか。例えばそ

の方の名前は、私が学生時代家庭教師をしたときの女子高生の名前と同じだったので、その家庭教師の子どもの名前を思い出すのです。関連付けて思い出すことが有効な方法です。歴史で何年に何があつたかということ覚えたいと思います。あれは結構覚えていたと思います。数字を覚えるのは、語呂合わせが一番だということです。他にもお店の名前であつたり、銀行の名前や商品名だつたりすると、どれだけ覚えられるか。忘れやすい名前には関連付けの工夫がいるわけです。

次に、行動の話です。かつて何かしたことの中に、いつまでも忘れられないことがあると思います。外国に行つて歴史的な建造物を見たとか、日本でも素晴らしい歴史物を見たとかです。もつと俗な話をする、貸したお金は忘れません。行動の思い出と言つのは、場所の記憶、名前の記憶、道の記憶など主に側頭の部分に張り付いているのですが、前頭の部分が制御しているのです。ですから、もし事故で前頭の部分を損傷してしまうと、いろいろな記憶がつながりにくくバラバラになってしまい、側頭を損傷してしまうと過去の記憶そのものがなくなってしまうわけです。

新しい記憶は、どのようにして覚えれるのか。初めて会つた方のお名前をずっと覚えていられるかと言え、難しいです。新しい記憶と言つのはどうやって覚えていくかと言つと、脳のコアな部分は爬虫類から受け継がれているのです。その上にある第二番目のところには、「海馬」と言うタツノオトシゴのようなものがあり、そこが担っているらしいのです。「海馬」に新しい記憶、行動も物の名前もそこに一旦入ってくる。そして、睡

眠中に整理し分類しながら、大脳皮質の方に伝わっていくのだそうです。ですから、「海馬」が損傷すると、過去の記憶は覚えていないのに新しいことが覚えられないということになります。とにかく「海馬」と言うものが大切であつて、そこに蓄えた知識が大脳皮質に移動して過去の知識となつて蓄えられることになります。ですから、ある意味で、「海馬」が縮小していく我々の世代にとって大事なことになるのですが、「どうも歳をとつたから」というのは適切ではなさそうです。つまり訓練次第ということです。「こんなことをやってみよう」とか、「新しいことに挑戦してみよう」とかすることで、「海馬」が鍛えられキヤパシティが保たれるのです。「もうあかん。歳やから何も覚えられへん」——これが一番アカンのです。とにかく、意欲をもって新しいことに興味をもって覚えてやろうということが脳を素晴らしい若返らせるといふことです。確かに神経細胞は減っていきますが、自分が常に補うことで記憶力が鍛えられるということです。自分にとって大事なことは、もう一度思い出してみようということです。私は、隠れ鉄道ファンで、小学校のとき、電車の車体番号や特急・急行の名前が好きでずっと覚えていたのですが、JRになり新しい車両になると全然覚えられなくなっているのです。何のため?と言われればかもしませんが、これも一度整理して覚えて直してやろうかと思つてるところです。「思い出してやろう」とか、「新しいことをしてやろう」とか、ここで一つでも決めてください。そして、今日お帰りになったら早速試してほしいと思います。

中村道子の園経営と園長の品格 ―昭和の激動期を愛珠幼稚園と 共に生きた中村道子―

発表者 幼年教育 31期

松村 紀代子



一、研究の目的
明治13年、北船場に町立幼稚園として創設された愛珠幼稚園(以下愛珠と略)の園長として、中村道子は、昭和16年から同31年まで勤務した。

本研究は、残された資料や関係者からの情報により、愛珠幼稚園と共に生きた中村道子の歩みを明らかにすることで、リーダーとしての指導力・決断力・行動力・人間的魅力を問い直し、今、求められる園長など管理職の品格を探ることを目的とする。

二、揺籃期―設立幼稚園としての使命 ① 園長としての覚悟

中村は、着任時に退職願を胸にしたほど課題のあった保護者組織の問題をリーダーシップを発揮して調和的に解決した。また、戦時下に在って、安全で楽しい園生活のために力を注いだ。

② 愛珠幼稚園について

愛珠は、「幼児の教育上欠くことのできない幼稚園は全国に二・三しかない。この連合町会は全国に率先して町立幼稚園を設立し幼児保育の効果を社会一般に知らしめよう」と開園された。創立時からの文書や教具、昔話本、保育日誌等が三七〇〇点以上も残されている。更に、現園舎は、明治34(一九〇二)年竣工で、明るさと広さを第一に、保育室・廊下・園庭に段差のない当時の首席保母の設計案に基づく日本最古の木造園舎である。

③ 愛珠幼稚園への思い

地域関係者の労苦によって設立され、現園舎や所蔵品は、日本の幼稚園史を語る歴史的かつ建築的価値をもっていることに感銘を受けた中村は、それらと、長年にわたりそれを用いた子どもや保母たちの歴史を守り通すのが自分の使命だと受け止めた。

昭和18(一九四三)年になると、木造園舎に対する建物疎開の勧告が繰り返されたが、「頑固ばば」と陰口をたたかれても拒み続け、貴重な書籍や所蔵品の多くは大阪郊外に疎開させた。しかし、昭和20(一九四五)年3月13日の大阪大空襲で、愛珠の400m南まで罹災した。繰り返される空襲の中、一人園に泊まり込んでいた中村自身の命も最後と覚悟をしたが、奇跡的に園舎の焼失は免れ、終戦を迎えた。

守られた園舎は傷みが気になった。中村は、全国幼稚園施設協議会の副会長として文部省との交渉に出向き、

公立幼稚園の予算獲得に奔走し、大阪市や地域、保護者の協力の下、長期にわたり園舎の改修・改築工事を行った。

また、所蔵品である「幼稚園集戯劇之図」にある「家鳩」の歌が掲載されている園所蔵の「唱歌」には、曲の一部が欠けていた。中村は、老齡の元保母を探して節を聞き出し、「家鳩」の全文を明らかにした。さらに、この図の模写画を、震災で焼失していたお茶の水女子大学附属幼稚園に寄贈した。

三、戦後における教育内容の開発

① 国際理解としての英語教育と保育内容の改善

戦後、進駐軍米兵の突然の訪問が続いた。中村は、兵士が園児を見て故国の子どもを懐かしんでいるのを知り、国が違っても想いは同じである、国を超えて人を理解できるようにと、英語に親しむ機会を保育に取り入れた。

また、幼稚園独自で幼児画展覧会を開催し、広い遊戯室に全園児の作品が必ず一点は展示されるように配慮した。子どもの意欲を重視し、子ども主体の生活が展開できるように精力的に保育内容の改善を図った。

② 遊具の開発と幼稚園教員による保育研究への動き

退職前の中村が職員とともに始めたのが、「運動遊具の効果的使用と改善について」の研究である。全園児の遊具の使用状況を細かく記録し、

時期や男女の別による遊具の使用頻度や遊びの内容等を分析し、必要な活動を補うために吊り環・吊り網の遊具を提案し、成果を全市に発表した。

四、園長としての品格

中村にとって園舎を守ることは、幼児教育にかける先覚者の思いを引き継ぎ、次代へと継承発展させていくことだった。15年8か月を支えた原点は、退職願を抱えての着任時、ゆるぎない決断力で行った組織改組の成功にあった。貴重な資料や所蔵品の疎開先は、中村の熱意に協力を申し出た元保護者の蔵だった。中村の責任感と意思の強さは、新時代の教育の推進力となった。

「家鳩」の曲の全文は、日本の遊戯を語る上でなくてはならないものである。また、学者の助言から取り組んだ資料室整備は、幼児教育研究に大きく貢献し、今に生きている。

中村は、子どもたちへの限らない愛情と保育に対する向上心をもった人であり、実態を踏まえた新しい保育内容を開発できる人であった。中村の生きざまは、激動する幼児教育の流れの中で学ぶべきものであり、園長としての品格でもある。

退職後の中村は、津守真の依頼により『幼児の教育』に6年間16回にわたり記録を残した。「頭が痛くてもう書けない」という極限まで書き続けた。その凛とした姿には、変革期の幼稚園長が学ぶべき品格がある。

話 『大阪の「愛珠」 という幼児教育』

講 兵庫教育大学名誉教授

田 中 亨 胤



松村紀代子
さんは、愛珠
幼稚園の明治
戦後の戦前、
戦後のところ
を整理してい

ただきましたが、決してその時期だけに閉じ込められた今日のご発表ではありません。今、あるいは、これからの視点というものをきちんと示していただきたいと思います。

1、園長のリーダーシップ

今日は、愛珠幼稚園の中村道子園長を紹介されました。組織や現場を支えるのは、どんな苦難があっても、困難があってもそれを乗り越えるのはトップリーダーの責任なのですね。命をかけて守る。これを中村道子という人はやってのけました。園長のリーダーシップ、それだけでなく、園長の「人格性」とか、「知性」とか「感性」とか「品格」——やはり人間的なカリスマ性と魅力をどれだけリーダーが持つことができるか。これは憧れのモデルとして職員に対してだけでなく、子どもたちにとっても、「あの先生すごいなあ！」という人間力でもあるのです。

2、子どもが主体になれる環境の提供

今日の資料の中には、先見性をもった教育・保育の視点を提供されています。

それは何かと言いますと、子どもが主体になれる環境をできるだけ作って提供していくという努力です。今、公教育のなかでも「環境を通して」「遊びを通して」ということが言われていますけれども、まさに子どもにとってのよりよい主体になれる、そういう環境を配慮していく、こういう点を中村は、先生方とともに取り組んでいったのです。

3、カリキュラムの積極的な開発

週の指導計画のなかで細かくではなく、大きく子どもたちの生活というものを捉えながら、子どもたちが余裕をもって生活を送ることを示していました。

4、グローバル化

積極的に英語活動を取り入れています。世間を気にせず、グローバルスタンスという先見性を持っていました。

5、新しい視点を取り入れながらの、地域の文化や伝統の継承

地域の文化や伝統の担い手は子どもたちであるという視点から、中村は保育を進めてきました。

「愛珠」は新しいこれからの大きい教育の方向性として、3つの視点を示唆しています。

- ① 子どもの教育・保育のアカウンタビリティ
- ② 児童の最善の利益——こういったことを限りなく子どもたちに配慮し、保育環境を整える。
- ③ 子どもに人間的底力をつける。

特別企画 上方落語

落語家 桂 吉 弥



大阪の文化
のよさを味
わっていただ
こうと、「上
方落語」を特
別企画しまし

た。若手落語家の超売れっ子である桂吉弥氏にご依頼申しあげたところ、快諾をいただき実現する運びとなりました。もともと実父が本同窓会大阪府支部の会員であることから、当初よりスムーズに事が運びました。

さて、桂 吉弥氏の経歴を簡単に紹介します。大阪府茨木市生まれで、神戸大学教育学部に進学。当初は教職を志していました。が、クラブ活動として落語研究会に入部され、桂 吉朝氏の『時うどん』に出会ったときから落語家へと進路変更。やっとのことで吉朝氏に入門を許され修行に励むなか、大師匠・桂 米朝氏のもとで3年間の内弟子生活も果たされました。

その後は、皆様も御存じの通り各種演劇・芸術祭の新人賞を数多く受賞されたことから、新聞のコラムを執筆したり、テレビやラジオ番組を担当したりと、超多忙な日々を過ごされています。

会場に特設された高座では、開口一番「父がお世話になりました」と、

丁寧にご挨拶。これまでの長い厳しい修行が、場と周囲の人たちへの気遣いとして表われていると伺い知れました。この気遣いは、昨夜、雷雨があったことにふれ、「今あるキャッチなことにはふれなければならない」と枕の話である『日と月と雷』につながります。「朝、雷が目覚めると、日と月がいらない。月日が立つのは早いものだ。俺は、夕立にしよう」とうまく結び付けておられました。

そして、落語の神髄は、「落語家が口で話したことを、お客様一人一人が豊かな想像力を働かせて、それぞれが自分なりの感情を表出させること」と語る桂吉弥氏。教育が、一人一人の子どもに対して、その子に即した視点で育み伸ばそうとするところとよく似ていると思われ

ます。続いて、米朝師匠との思い出にふれられ、直接指導をいただいたことは少ないけれど、この斬をどういうふうに演じたらよいのかと、「ああでもない」「こうでもない」とよく言葉を交わされた懐かしさに話されました。このことも、私たちの日々の授業に対する取り組みと相通じるところが多々あり、大変参考になりました。

さらに全国大会であることを意識されたうえで、侍に対する江戸と上方の扱いの違いを解説して小話に。最後は、落語家になるきっかけとなった『時うどん』を演じて、場内を沸かせました。笑いの中に隠れてしまいましたが、話すことのひとつに非常に配慮された内容の高座でした。

平成28年度 教育実践研究活動等に係る受賞者

(五十音順・敬称略)

	氏 名	教育実践研究活動等の内容	専攻・コース・期
嬉 野 賞	おおまえ やすひこ 大前 泰彦 (和歌山県)	教育現場での豊富な実践経験を踏まえ、また、臨床心理学の研究者としても専門性を生かし、論文や訳書・共著等を多数執筆する。社会活動を広く展開し、青少年の健全育成や後進の指導・育成にも尽力している。	学校教育専攻 生徒指導コース 14期
	こにし とよふみ 小西 豊文 (大阪府)	算数教育の指導者として実績があり、算数の指導法についての実践的研究を深め、単著・共著等を多数執筆する。同窓会の研究部長としても手腕を発揮し、基盤構築に貢献した。現在、教員養成系大学で後進の育成に努めている。	学校教育専攻 教育方法コース 3期
	ふじい かずあき 藤井 一光 (兵庫県)	修了後も、学び続ける教員としてギリシャ哲学の研究を深め、研究成果を活かした授業実践に取り組んでいる。教育研究者として公民教育についての単著・共著・論文等を多数発表し、後進の指導や育成に顕著な実績を上げている。	教科・領域教育専攻 社会系コース 7期
奨 励 賞	こばし たくじ 小橋 拓司 (兵庫県)	県立高校教諭。専門の地歴科地理分野において実践的研究を深め多角的視点から論文・調査報告等を多数執筆する。在籍する学校では、地域教材として生徒とともに防災教育に取り組み、研究成果を発表するなど成果を上げている。	教科・領域教育専攻 社会系コース 24期



- 平成29年度 兵庫教育大学大学院同窓会募集「教育実践研究論文」
募集要項につきましては、同窓会事務局へお問い合わせください。
- 兵庫教育大学大学院同窓会事業「古本募金で兵庫教育大学を応援しよう」
あなたが読み終えた本が募金となって教育支援に役立てられます。送料もかかりません。宅急便が自宅へ受け取りに伺います。詳しくはチラシをご覧ください。

大学院同窓会より、平成28年熊本地震被災への 学校教育等教育支援にかかる寄付を行いました

平成28年9月20日(火)午前10時、熊本県庁教育長室において、8月の同窓会総会で承認された熊本地震「学校教育等教育支援にかかる寄付金」20万円を県教育委員会教育理事金子徳政氏に直接お渡しすることができました。

同窓会からは、川村庸子会長、草場聡宏九州・沖縄副ブロック長、岩根浩熊本県支部会員、中尾豊喜研究部長が訪問いたしました。会長よりこのたびの熊本地震の甚大な被害に対するお見舞いの言葉があり、約80名の熊本県支部同窓生がそれぞれの教育現場で復興に尽力されていることに対し些少ではあるがお役立ていただきたい旨、同窓会からの願いをお伝えいたしました。

金子教育理事さんからは、兵庫県の支援団体が地震発生後に最も早く駆けつけてくれたことへの感謝や、これまでの地震被災でも例を見ない余震回数や被災人口、被災建造物棟数や復興の現状など、今日に至るまでの貴重なお話を頂戴することができました。

非常に厳しい被災状況をお聞きし、先の東日本大震災においても子どもたちや親の心のケアの指導員養成が切実な課題となり、宮城県では被災の翌年から養護教諭を兵庫教育大学大学院に派遣再開した例を紹介し、熊本県での積極的な活用を要請してまいりました。



寄付金の贈呈

兵庫教育大学大学院同窓会第34期会計決算報告書

(自 平成27年6月1日～至 平成28年5月31日)

〈収入の部〉

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	適	要
会 費	4,200,000	4,109,696	△ 90,304	272名+2名	
繰越金	5,287,283	5,287,283	0		
雑収入	717	860	143		
合 計	9,488,000	9,397,839	△ 90,161		

〈支出の部〉

款	項 目		予算額	決算額	増 減
	款	項 目			
総 務 部	役員会費	旅費	1,322,000	1,269,186	52,814
		需用費	1,320,000	1,269,186	50,814
	事務費	通信費	2,000	0	2,000
		旅費	0	0	0
		会議費	0	0	0
会 計 部	需用費		26,000	15,004	10,996
		通信費	7,000	6,412	588
	事務費	旅費	10,000	8,592	1,408
		会議費	9,000	0	9,000
			0	0	0
研 究 部	印刷製本費	実践研究誌	88,000	68,458	19,542
		需用費	0	0	0
	事務費	通信費	30,000	34,738	△ 4,738
		旅費	20,000	13,902	6,098
		会議費	24,000	11,930	12,070
広 報 部	会報印刷費		14,000	7,888	6,112
		印刷費等	269,000	245,866	23,134
	事務費	需用費	250,000	244,620	5,380
		通信費	5,000	286	4,714
		旅費	2,000	960	1,040

組 織 部	活動推進費		ブロック経費	407,000	150,586	256,414
	支部助成金	需用費				
事務局 費	通信費	5,000	200,000	200,000	98,800	101,200
	旅費	0	2,000	50,000	150,000	2,000
	会議費	0	5,000	1,786	3,214	0
		0	0	0	0	0
事務局 費	渉外費	出席旅費等	740,000	768,926	△ 28,926	
	印刷費	冊子印刷費	10,000	121,680	△ 111,680	
	委員会費	旅費	100,000	90,720	9,280	
	事務費	需用費	500,000	368,400	131,600	
		通信費	100,000	141,747	△ 41,747	
総会運営費	院生協活動助成費	通信費	0	0	0	0
		旅費	0	0	0	0
	寄付金「兵庫教育大学大学院同窓会研究助成金」	会議費	30,000	46,376	△ 16,379	
		運営費	230,000	430,000	△ 200,000	
		運営費	100,000	100,000	0	
予 備 費	繰越金他		1,000,000	1,000,000	0	
			5,306,000	2,592	5,303,408	
	繰越金他		5,306,000	2,592	5,303,408	
合 計			9,488,000	4,050,618円	5,437,382	

収入決算合計 9,397,839円 支出決算合計 4,050,618円 差引 5,347,221円
差引残高の 5,347,221円 は、第35期会計の収入（繰越金）に充てます。

兵庫教育大学大学院同窓会運営積立金会計は、次の通りです。
①定期貯金 5,543,000円 平成19年10月31日預入《昭和59年8月24日預入分》
②定期預金 4,457,000円 平成24年5月14日預入
以上、報告いたします。
平成28年5月31日

兵庫教育大学大学院同窓会 会長 川村 庸子
副会長（会計部長） 北山 鎮道

監 査 報 告

上記の第34期会計決算報告並びに運営積立金会計を監査した結果、正確であることを認めます。
平成28年5月31日

兵庫教育大学大学院同窓会 監事長 望月 茂
同 監事 中根 弘之
同 監事 中園大三郎
同 監事 早川 求
同 監事 田中 嘉明

第36回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会[大阪大会]



第36回兵庫教育大学大学院同窓会総会・研究大会[大阪大会] 平成28年8月6日 於ホテルアウリーナ大阪



▲同窓会大阪大会の様子



▲情報交換会



▲巡検(愛珠幼稚園 正門)



▲巡検(適塾)



▲巡検(大阪歴史博物館前)



▲巡検(適塾・緒方洪庵像を囲んで)

次回は関東大会で集おう

大会テーマ：教師教育の「トップランナー」としての志をもって

大会宣言：

第37回兵庫教育大学大学院同窓会関東大会は、本同窓会がブロック活動を開始して初となるブロック一都六県すべての支部による協働開催である。本大会において、開学から39年を経た今日、われわれ同窓会員は再度、建学の精神に基づき、いま大きく変わろうとする日本の教育に資すべき使命と誇りを確認した。

よって、ここに本会のさらなる振興を図るべく次の3つの指針を共有し、共同行動とする。

- 一、常に会員は、教師教育のトップランナーであるという自信と誇りをもち、自ら学び、自ら作り、自ら身につける「学心研道」*を生きる。
- 一、常に会員は、未来の主権者たちが主体的・協働的に自らの資質・能力を伸ばす教育を探究する。
- 一、常に会員は、母校である兵庫教育大学の充実・発展を願い、積極的に貢献する。

以上をもって、兵庫教育大学、そして本同窓会のますますの栄光を祈念して大会宣言とする。

平成29年8月5日
第37回兵庫教育大学大学院同窓会総会

*「学心研道」：兵庫教育大学第2代学長上寺久雄先生が本学の根本理念にしたいと願って大学構内の石碑に刻み込まれた言葉。「学ぼうとする意欲をもって、どこまでも真理を究明し、教育の道が見えてくるならば道を探し求め、道が見えなければ道を作って進む。」という意味。

期日：平成29年8月5日(土)～6日(日)

会場：アルカディア市ヶ谷 私学会館 (TEL：03-3261-9921) 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

◇関東大会提言テーマ

「未来の主権者たちが、主体的・協働的に自らの資質・能力を伸ばすためには」
～子供たちの心の原点に立ち返って、これからの教育の進むべき方向について考える～

編集後記

同窓会報第40号で紹介した「播磨国風土記」の歌にある、小目野の地に立つわが兵庫教育大学大学院。同窓生としての矜持と、我が国の教育の更なる充実発展に寄与すべく、高い志を持ち続け、日々精進に努めたいものです。

(広報部長 毛利直巳)